

会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和7年度第1回宮古市子ども・子育て会議を次のとおり開催しました。

令和7年8月12日

宮古市子ども・子育て会議

- 1 開催日時
令和7年7月23日（水） 午後2時から午後3時30分まで
- 2 開催場所
市民交流センター2階 多目的ホール
- 3 議題
 - (1) 令和6年度事業実績について
 - (2) 令和7年度新規事業について
 - (3) こども計画について
 - (4) 保育所等適正配置計画について
 - (5) 特定教育・保育施設の利用定員の変更等について
 - (6) その他
- 4 会議の概要
別添のとおり
- 5 問い合わせ先
保健福祉部こども家庭センター子育て支援係
電話0193-68-9084

令和7年度第1回宮古市子ども・子育て会議

1 出席者（16名）

加藤敏子、小松美加、前川真穂、**柚原知美**、佐々木千佳子、青山志保、加藤美季、
長谷川寿子、似内織江、川口太嗣、伊藤直子、齋藤玲子、刀澤仁、花輪政文、
岸田優、千田志保

2 欠席者（2名）

高玉智晴、飛鳥克寛

3 オブザーバー出席者（1名）

岩手県沿岸広域振興局保健福祉環境部宮古保健福祉環境センター
福祉課 主事 小林奈々恵

4 事務局出席者（9名）

保健福祉部長 三田地環、保健福祉部こども家庭センター所長 大向守、
保健福祉部こども家庭センター統括支援員 多田広美、
保健福祉部こども家庭センター子育て支援係長 若江奈津子、同係主任 岩間愛
保健福祉部こども家庭センター母子保健係長 沢田祐理子、
保健福祉部こども家庭センターこどものそだち応援係長 小野寺汐美、
保健福祉部こども家庭センター保育係長 桎家真由美、同係主査 鳴海健治

5 傍聴者

なし

6 議事等

(1) 令和6年度事業実績について

令和6年度事業実績について事務局より報告した。

(2) 令和7年度新規事業について

令和7年度新規事業について事務局より説明した。

(3) こども計画について

こども計画について事務局より説明した。

(4) 保育所等適正配置計画について

保育所等適正配置計画について事務局より説明した。

(5) 特定教育・保育施設の利用定員の変更等について

特定教育・保育施設の利用定員の変更等について事務局より報告した。

(6) その他

・こどもまんなか実行計画2025について、事務局より情報提供を行った。

質疑応答内容

質問・意見	回答
【議題(1)「令和6年度事業実績について」】 (委員) 対象者登録型のこども食堂は、生活環境や経済環境に課題を抱える方が対象となっているようだが、どのような方法で登録や申し込みを行っているのか。 【議題(2)「令和7年度新規事業について」】 (委員) 5歳児健康診査事業は、とても良い取り組みだと思う。3歳児健診から就学時健診までの間、不安な保護者もいると思うので、早く本格実施していただきたい。(意見) (委員) 生殖補助医療等事業の予算をたくさんっているが、そのくらい必要になる大事なことなのだと思う。沿岸部の産婦人科が減っている中で、子ども子育ての基本となる出産の部分を大事に考えていると感じた。(意見) 【議題(3)「こども計画について」】 (委員) 宮古市のこども計画がどのようなか楽しみである。こどもたちの意見を反映して施策に活かしていくという経験が、こどもにとってとても重要。アンケートやワークショップは具体的にどのようにするのか。	(事務局) 対象者登録型は、宮古市社会福祉協議会のくらしネットみやこ相談室が実施しており、生活困窮者事業や様々な相談の中から利用に繋げている。また、こども家庭センターで関わった方で必要な方を紹介するなどしている。 (事務局) アンケートは10歳から39歳までの4,000人の方を任意で抽出し、これからアンケートを郵送する。調査方法は紙ではなく、WEBを使ったアンケートを考えている。ワークショップは市内のNPO法人と協力して行う予定であるが、具体的な内容についてはこれから検討する。

【議題(4)「保育所等適正配置計画について」】 (委員) 学童の家について、空き教室の利用はすごく良い活用方法だと思う。市内で校舎内に学童がある施設は何か所くらいあるのか。 (委員) こどもにとっても、安心できる場所で放課後の長い時間を過ごすことができるメリットがあり、学校現場にとっても、こどもがそばにいてくれると何かあったときに連携を取りやすいので、このような活用の仕方はどんどん進めていっても良いと思う。(意見) (委員) なぜ、山口保育所、愛宕保育所、佐原保育所が対象なのか。 (委員) 「適正配置」というのは、資料のとおり少子化や人口動態の変化を考慮してという解釈で良いか。 (委員) 街中に統合していくという考えなのか。	(事務局) 崎山小学校、山口小学校、千徳小学校で空き教室を利用している。 (事務局) 老朽化が進んでいることと、今保育所が建っているところが崖地で危険箇所となっているため、適正な配置にしていくということでの計画である。 (事務局) 現状の設置数であると、こどもの数が減っていても保育士の配置は必要であり、保育士も不足している状況の中、小さい施設が散在することで、保育環境を整えることに支障があるため少しずつ適正な数にしていく。 (事務局) 全体計画の大きな考えとしては、民間が担えないサービスを市が受け持ち、また、民間の進出が少ない地域は市が保育施設を設置するということで、基幹的保育施設という位置づけをしている、小山田保育所、千徳保育所、田老保育所、新里保育所の4か所で、そのような市の役割を担っていく考えである。
---	--

【議題(5)「特定教育・保育施設の利用定員の変更等について」】 <質疑なし> 【議題(6)「その他」】 ・こどもまんなか実行計画2025について（情報提供） （委員） 本会議の事業に関して、対象者は誰なのか。 （委員） 報告された事業を見て、小学校低学年までのこどもや、これから出産される女性やそのような家庭を対象にしていると思っていた。今回示されたこども計画やこどもまんなか実行計画2025にあるように、今後、小学生未満に対してもこれまで以上に大事になってくと思うが、中学生高校生がいかに宮古に戻ってきて子育てをしたいかが大事になってくと思う。こどもたちに宮古の魅力を教えていくのも大事だと思って聞いていた。こども計画が重要になってくと思うので早期に検討しながら運用してほしい。（意見） （委員） 小国保育所は今児童が2名で、今後どうなるのか確認したい。 （委員） その地区に児童が2名しかいないわけではない。その児童がどこにいて、なぜ地域の保育所を使わないのかなどは把握しているのか。	（事務局） 会議は条例に基づいて設置しているが、対象年齢の区切りは特に設けていない。 （事務局） 具体的には決まっていないが、児童数に合わせた保育体制を作っていくことになると思われる。 （事務局） 一部の方は新里保育所などを選んで保育を受けていると認識している。
---	---

(委員) 地域にあって園バスもあるが、新里は離れているのに、どうして新里に行くのか。時間や給食のこともあるかもしれないが、一度閉めてしまうと再開は難しいと思う。地域に子どもがいるのであれば地域から保育所をなくしてほしくない。 (委員) アンケートも毎年とっているので、何が問題なのか、保育所に何を望むかというところまで踏み込んでいくと良いと思う。(意見)	(事務局) 今年度適正配置計画を策定する中で、地域に保育所を残してほしいという思いは、どの地域も同じ思いで、市の方も同じ思いである。児童数も人口も減っていく中で、限られた財源をどう効果的に使っていくかという視点でも考えなくてはならず、そのような全体的な視点で計画案を進めていきたい。
---	---